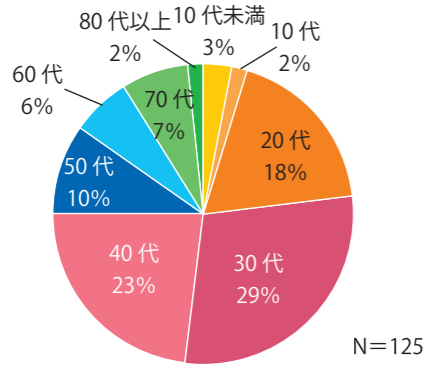


アンケート結果

今年の《夕暮れのシエキノカワでピクニック。》の来場者数は昨年を上回る延べ 380 名でした。そのうち 132 名の方々にご回答いただいたアンケート結果の一部をご紹介します。

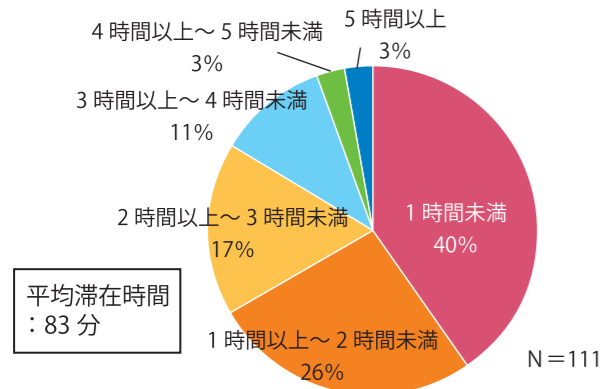
Q. 回答者の年齢



今年も昨年と同様、回答者の 8 割強を 40 代以下が占める結果となりました。なかでも若い家族連れが多く、30 代以下の割合は昨年を上回りました。

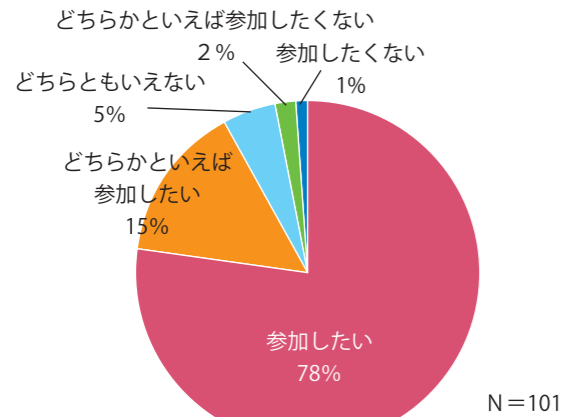
Q. 滞在時間はどのくらいでしたか？

※滞在途中の場合は予定時間を回答。



今年も昨年と比べ滞在時間に大きな変化はなく、回答者の約 6 割が 1 時間以上滞在し、平均滞在時間は 83 分でした。

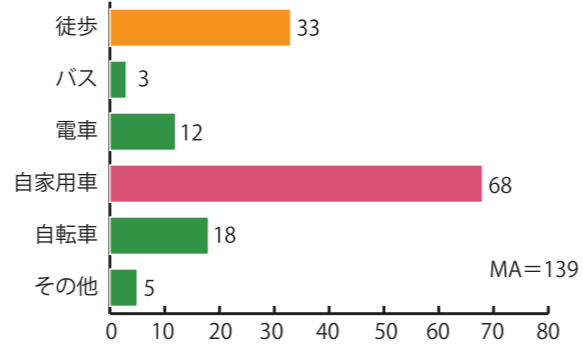
Q. 今後、感染症対策を講じた河川敷のピクニックイベントに参加したいですか？



今年も入口での検温やハンモック・椅子等の除菌などの感染症対策を実施しましたが、これらの対策を講じたピクニックイベントについて、「参加したい」「どちらかといえば参加したい」を合わせると 9 割以上となりました。

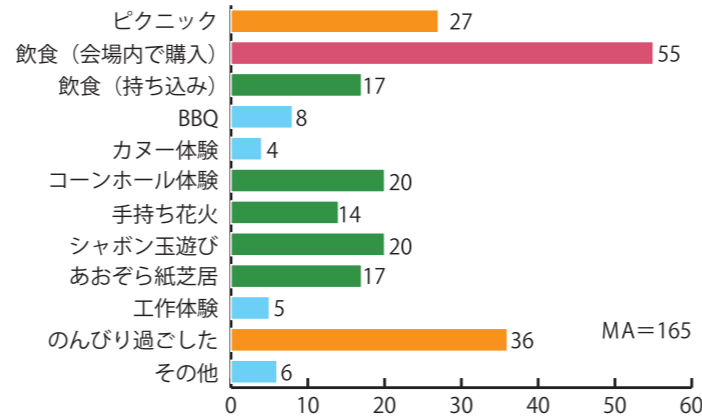
※全てのアンケート結果は(一社)市駅GGPホームページ「しえきのいま」のレポート記事をご覧ください。
▶<https://shiekigpp.com/report/shiekinokawa211024/>

Q. 今日はどの交通手段を使って来られましたか？ (複数回答)



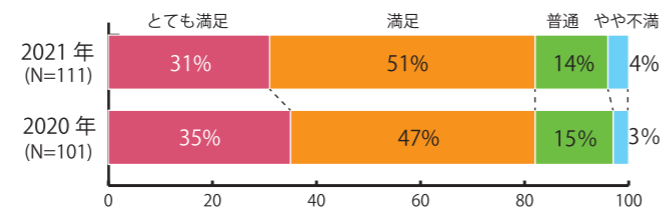
今年も公共交通機関と徒歩による来場を呼びかけましたが、昨年と同じく自家用車が最多となりました。一方で徒歩での来場者は昨年より増加しました。

Q. 会場でどのように過ごしましたか？ (複数回答)



今年も「飲食(会場内で購入)」が最も多く、次いで「のんびり過ごした」「ピクニック」の順となり、河川敷でゆったり過ごせる場を提供することができたと考えられます。

Q. 全体の満足度について



今年もコロナ禍での開催でしたが、「とても満足」、「満足」を合わせると昨年とほぼ同じ 8 割強となり、多くの来場者に楽しんでいただくことができました。

編集後記

今年もコロナ禍での開催となった「シエキノカワ」ですが、以前と変わらないほど多くの方々楽しんでいただくことができました。夏の夕涼みは「和」、秋は「ハロウィン」をモチーフにした会場装飾を試み、私たちも楽しみながら企画することができました。これまでとは違った新しい生活様式にも慣れ始めてきた頃ですが、この社会実験を機に、市駅近くの身近な河川敷の魅力を多くの方々へ再発見する機会となれば幸いです。ご協力いただいた地域住民の皆様、ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

和歌山大学観光学部永瀬研究室
3 年生 堀内慧太・森山宗史朗

市駅まちづくり通信 16

ウィズコロナ時代の河川敷の楽しみ方

第 16 号 2021.12.21 発行：市駅まちづくり実行会議 編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室



初の夏開催！《シエキノカワで夕涼み》

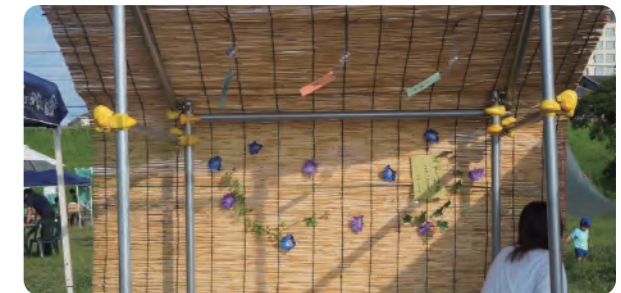
毎年秋に実施してきた社会実験「シエキノカワでピクニック。」の関連企画として、7 月 25 日に「シエキノカワで夕涼み」を開催し、延べ 158 名の方々にご来場いただきました。夏の紀の川河川敷に親しんでもらうため、繁茂した雑草の草刈りを行い、日中の暑さを考慮して夕方時間帯を中心に開催しました。水辺にはよしずのあずまやを設けて畳ベンチを配置し、風鈴を吊り下げて夕涼みを演出したほか、小さいお子さんも楽しめる凧づくり体験などの企画も用意し、夕暮れ時には手持ち花火を楽しんでいただきました。夏の夕涼みということで、なかには浴衣や甚平を着て参加してくれた子どもたちの姿も見られ、秋とはひと味違った趣の企画となりました。

市駅周辺のまちの情報サイト開設 しえきのいま

一般社団法人 市駅グリーングリーンプロジェクトが運営する web サイト「しえきのいま」は、和歌山市駅周辺で行われている様々な取り組みについて発信する「まちの情報サイト」です。社会実験などのまちづくりの取り組みに加え、市駅周辺の公共施設や駅前広場のイベント情報、市民図書館に併設された子育て支援拠点「育ちのえきくすの木」の情報、これまでの活動の記録や地域資源に関するコラム記事なども掲載しています。ぜひアクセスしてみてください！



<https://shiekigpp.com>



水辺のピクニックエリア

水辺の縁側

憩いの空間として川の近くに設けた「水辺の縁側」では、今年もテントを利用したあずまやを中心に、畳ベンチやハンモック、デッキチェアなどを設置し、ご来場いただいた多くの方々に、ゆったりとくつろぎながら紀の川の開放的な眺めを楽しんでいただきました。今回は開催時期がハロウィンと近いこともあり、テントの上に“HAPPY HALLOWEEN”のバナーを掲げ、畳ベンチの上



には本物のカボチャをくり抜いて手作りしたジャック・オ・ランタンを置くなど、ハロウィンの演出を行いました。家族連れをはじめ多くの方々が和やかに時間を過ごす様子が見られました。

フォトブース

今回は開放的な水辺をバックに写真を撮影できるように、ハロウィン仕様のフォトブースを設置しました。ティピーテントにガーランドを飾りつけ、小さなお子さま向けに手作りのフォトアイテムを配るなど、ハロウィンの雰囲気を楽しみながら思い出の一枚を撮影できる空間を演出しました。フォトグッズを手



を持った子どもたちの笑顔が印象的でした。

飲食・出店

フード・BBQ

今年も感染症対策のため出店の数を限定し、外部の飲食店ブースは設けませんでした。しかし、(一社)市駅GGPによる軽食や飲み物の販売を行い、飲食スペースとして各所にパラソル付きテーブルを配置しました。恒例の手ぶらで楽しめるBBQは、コロナ禍により外食の機会が減少していることもあって事前予約は満席となり、今年も好評をいただきました。



農産物・特産品販売

今年も和歌山大学観光学部の広川LIP（地域インターンシッププログラム）の学生チームによる広川町で採れたお米や薬草茶などの販売、まちなか百姓養成塾による採れたての野菜や果物の販売ブースを設けました。広川LIPのテントでは「ぶんぶんゴマ」や手形アートなどの体験教室も行われ、子どもたちが楽しそうに参加していました。



2021/10/24



アクティビティ

コーンホール体験

今年もアメリカ発祥のパーティーゲーム「コーンホール」の体験コーナーを設けました。これは乾燥させた豆やコーンが入った袋（ビーンバッグ）を、木製ボードの穴に投げ入れて得点を競う遊びです。今回は日本コーンホール協会の定める規格をもとに、材料やデザインなど全てオリジナルのボードとビーンバッグを製作しました。景品も用意したところ、繰り返し遊ぶ子どもたちや、距離を変えて挑戦する大人の姿も見られ、144名もの方々に楽しんでいただきました。



カヌー体験

今年も恒例の紀の川でのカヌー体験を、エディーカヌースクールさんのご協力のもと行いました。水上から広々とした紀の川の眺めを楽しめるカヌー体験は毎年好評で、今年も全ての予約の枠が埋まり、親子連れを中心に16組32名の方々が参加しました。心地よい川風に吹かれながら、身近な紀の川での非日常の水上散歩を楽しんでいただきました。



シャボン玉体験 / あおぞら紙芝居

(一社)市駅GGPが運営する和歌山市地域子育て支援拠点「育ちのえきくすの木」の方々に、紙芝居やシャボン玉など子どもたちが楽しめる催しを企画していただきました。当日は普段からくすの木を利用されているご家族の参加が多く、いつもとは異なる河川敷での外遊びに子どもたちも楽しんでいる様子で、芝生の上を走りまわる微笑ましい姿も見られました。



手持ち花火

夕暮れから日没にかけて、芝生広場で手持ち花火を行いました。来場者ご自身による持ち込みに加えて無料配布も行い、小さなお子さまから大人の方まで、多くの方に楽しんでいただけました。「最近では花火ができる場所も限られているので、こういう機会があって嬉しい」といった声もあり、好評をいただきました。終盤には水際の「シエキノカワ」のサインボード両側に仕掛け花火を置いて一斉に点火し、幻想的なフィナーレを演出しました。

